

もしも、のために知っていただきたいこと

- 定期的予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき(健康被害)は、法律に定められた救済制度(健康被害救済制度)があります。
 - 制度の利用を申しこむときは、お住まいの市町村にご相談ください(制度を利用するためには、一定の条件があります)。
- ※詳細は、厚生労働省HPをごらんください。「予防接種 救済制度」で検索できます。

シリーズのご紹介

このリーフレットは、法律ですすめられている定期接種のうちDPT-IPVワクチンを「きょう」接種するお子さんと、その保護者のみなさまのために、かならず知っておいていただきたい内容をまとめたものです。

そのほかの定期接種についてまとめたシリーズと、あわせてお読みください。



#03
DPT-IPV
ワクチンのはなし



#04
BCG
ワクチンのはなし



#05
MR
ワクチンのはなし



#06
日本脳炎
ワクチンのはなし



#07
水痘
ワクチンのはなし



#01
Hib
ワクチンのはなし



#02
小児の肺炎球菌
ワクチンのはなし

各リーフレットは、厚生労働省HPおよび予防接種リサーチセンターHPからダウンロードできます。「予防接種 リーフレット」で検索できます。

くわしくは
「予防接種と子どもの健康」
(発行：公益財団法人予防接種リサーチセンター)

をごらん
ください。



医療機関名

きょう

きょう 予防接種をうける
お子さんと、保護者のみなさまへ

DPT-IPV(百日せき・ジフテリア・破傷風・
ポリオ4種混合)ワクチンのはなし



#03

コ ノ ワ ク チ ン

きょうの予防接種を安心してうけていただくために

#03 DPT-IPVワクチンのはなし

まとめて
接種できるワクチンも
あるんだな!



DPT-IPVワクチンって?

- ◆百日せきは、せきが長く続くことが特徴の病気ですが、小さなお子さんがかかると命にかかわることもあります。
- ◆ジフテリアは、口やのどに細菌がとりついて始まりますが、体中に広がると命にかかわることもある病気です。
- ◆破傷風は、土のなかにいる菌が傷口から入って始まり、病気が進むと体中の筋肉がかたくなってしまいます。重くなると息ができなくなり、命にかかわることもあります。
- ◆ポリオは、便を通じて感染する病気で、手や足が動かせなくなり、場合によっては一生続くことになってしまいます。
- ◆DPT-IPVワクチンを接種することで、体のなかに百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオへの抵抗力(免疫)ができます。
- ◆これらはうつりやすい病気で、免疫をつけることで、まわりの人たちに広がるのをふせぐことができます(破傷風をのぞきます)。
- ◆このワクチンは生後3カ月になってから接種し始めます。

○予防接種をうけても、お子さんの体質や体調によって完全な免疫ができないことがあります。でも予防接種をうけておくと、たとえかかって、その多くは軽くてすみます。

2

ワクチンを接種するときのポイント

- 小さなお子さんは動かないように、しっかりと抱っこしてあげてください。保護者のみなさまがリラックスすると、お子さんも安心します。
- 注射で泣くお子さんは多いもの。大切な予防接種が苦手にならないように、がんばったことをほめてあげるなど、保護者のみなさまの工夫がカギです。

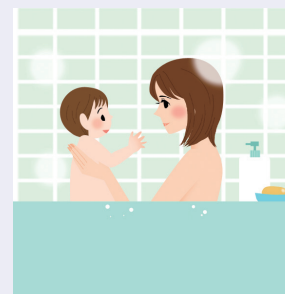


3

接種後の注意

- 接種直後、30分くらいはすぐ対応してもらえるように、医療機関のなかでお子さんの様子を見てあげるか、すぐに医師と連絡がとれるようにしてください。この間に急な体の変化がおこることがあります。
- 帰宅後もはげしく体を動かすことはさげさせ、接種個所をきれいに保ってあげましょう。
- お風呂には入れてもかまいませんが、接種個所をこすらないでください。

予防接種をうけたことは将来、その病気に対して免疫があることを示す大事な記録となります。母子健康手帳は大切にとっておきましょう。



1

当日はココをチェック

- お子さんの体調はよいか、熱があったり、ふだんと変わったところはないか確認しましょう。
- 心配なことがあるときは、医師に相談しましょう。質問をメモしておくとうえやすくなります。
- 母子健康手帳はかならずもっていきましょう。



おこるかもしれない体の変化(副反応)

- ◆DPT-IPVワクチンを接種した後、接種個所が赤くなったり、はれたり、しこりができたりすることがあります。
- ◆熱がでたり、おなかをこわしたりするほか、鼻水やせき、ぶつぶつができたり、のどが赤くなる、はき気がすることもあります。
- ◆きわめてまれにアナフィラキシー¹⁾、けいれん、血小板減少性紫斑病²⁾、脳炎などの重い病気にかかることがありますともいわれています。

- 1) アナフィラキシー：急激なアレルギーにより、じんましんができたり呼吸が苦しくなったりします。
- 2) 血小板減少性紫斑病：かさぶたをつくる働き血小板の数が少なくなって、出血しやすくなってしまいます。皮膚の下で出血して青あざができたり、歯ぐきから血がでたりします。

○予防接種をうけた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。